

議会 だより



令和6年4月22日

いいだ市議会だより

IIDACITY-gikaidayori

No.237

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

80
古紙配合率80%紙

遠山郷の自然と遊ぼう(上村) ～里山で子ども達と宝物探し～



第1回定例会 2P
ズバリ市政を問う(一般質問) 4~6P
議員紹介 12P

飯田市議会スローガン

「暮らし豊かな いいだの未来(あす)を、市民とともに」
～市民のしあわせに貢献する議会～

原油価格・物価高騰対策生活応援給付金給付事業の主な内訳

【2事業】3億9万1千円

①住民税均等割のみ課税世帯（低所得者世帯の拡充）

令和5年度 住民税均等割のみ課税世帯に対し生活給付金を支給
10万円 / 世帯

②子ども加算（低所得者の子育て世帯への加算）

令和5年度 低所得者世帯への給付金に子ども加算分を加算して支給
5万円 / 児童1人あたり



第1回臨時会では、エネルギーや食料品価格等の物価高騰の影響を受けた世帯への支援として「令和5年度飯田市一般会計補正予算（第9号）案」の上程があり、審議の結果、原案のとおり可決しました。また、3件の専決処分報告を受けました。

令和6年

第1回臨時会

2月8日
開催

令和6年

第1回定例会

2月27日
～
3月22日
開催

定例会のあらまし

第1回定例会開会日に、執行機関側から人事案件2件、「飯田市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について」など条例案件17件、「令和6年度航空写真撮影及び写真地図作成に関する事務の受託について」など一般案件6件、「令和5年度飯田市一般会計補正予算（第10号）案」など予算案件20件の計45件の議案の上程がありました。人事案件については、上程日の採決により同意しました。

閉会日には、「令和6年度飯田市一般会計予算（案）」、「飯田市電気自動車用急速充電器設置条例の制定について」に対して、反対の立場から意思表示がありました。また、いづれも、起立による採決の結果、原案のとおり可決しました。その他の議案についても各常任委員会での審査を経て、最終日に全て原案のとおり可決しました。

また、議員及び委員会提出議案を1件提出し、原案のとおり可決しました。加えて、社会文教委員会、予算決算委員会から所管事務調査に関する報告があるとともに、社会文教委員会から閉会中における継続調査の申し出があり、決定しました。

その他、第2回定例会までの議員派遣についても決定しました。

議員及び委員会提出議案について

【発委第1号】

飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

令和6年4月から、市の機構改革により、健康福祉部が「福祉部」と「子ども未来健康部」の2部体制となることに伴い、常任委員会の所管に属する事項の変更について、条例の一部を改正しました。

議案に対する質疑と審査

人事案件以外の議案が総務、社会文教、産業建設、予算決算の各常任委員会に付託され、集中的に審査しました。

委員会での質疑等の内容は、8ページからの常任委員会のページで、その一部を紹介し
ます。

定例会の本会議の議決結果や会議の様子は、飯田市議会ホームページ、YouTube「飯田市議会（中継）」でご覧いただけます。



予算決算委員会

予算決算委員会
及び分科会における
予算議案の審査の
様子は、YouTubeで
動画配信しています。



定例会開会日の2月27日の本会議で、令和6年度飯田市一般会計予算(案)をはじめとした令和6年度当初予算(案)13件、補正予算にかかる予算(案)7件が予算決算委員会に付託された後、予算決算委員会前期全体会で総務・社会文教・産業建設の各分科会へ分担し、3月4日から3月7日にかけて審査を行いました。

令和6年度飯田市一般会計予算(案)の審査にあたっては、昨年第3回定例会で行った決算審査と、昨年7月から9月にかけて行った「議会による行政評価」における議会からの提言が新年度予算にどう反映されているか、といった「議会としての政策サイクル」を回す視点を重視して審査しました。

3月21日に開催した「予算決算委員会後期全体会」において、令和6年度飯田市一般会計予算(案)に対して、「減額修正を行った上で再提出することを求める動議」の提出がありました。起立による採決の結果、原案のとおり可決しました。

分科会の審査の様子は、8ページからの各委員会ページをご覧ください。

北川正恭氏を招いて 飯伊市町村議会議員研修会を開催

令和6年1月22日に、飯田市議会主催による飯伊市町村議会議員研修会を鼎文化センターで開催しました。この研修会には、飯田下伊那14市町村の議員のほか駒ヶ根市議会議員の参加があり、約180人が聴講しました。

講師の北川氏は、三重県知事時代に「生活者起点」を掲げ、ゼロベースで事業を評価し改革を進める「事業評価システム」や情報公開を積極的に進め、地方分権の旗手として活動。達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」を提言されたことでも有名です。現在は、早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問として活躍されています。

研修会では、「2030年地方議会の展望」と題し、少子高齢化が社会に影響を与える2030年問題に絡めながら、地方議会の改革について述べられました。

北川氏は、「戦後、中央集権の下で、工業国家となるように努力し、豊かになった。過去を捨てて新しいことに挑戦し、新しい国の形をつくった。国を立て直すために傾斜生産方式を採用したが、偏りができた」と戦後復興の日本に触れながら、「一つの時代が回り、もう一回つくり直そうと変わってきた。具体の問題は地方にあるのだから、地方から変え

よう。地方は誰が変えるのか。地方議会から地方を変える。地方が変われば国が変わる。今までの常識にとらわれず、新しいまちづくりを根本的に創り直さないといけない」と訴えられました。

また、地方分権にも触れられ、「自己決定、自己責任が地方分権の考え方。国から言われた通りにする地方行政の在り方は卒業しないといけない。執行機関と議決機関の二つの機関が、競争し合うのが地方自治の在り方」とした上で、「執行機関と一緒にあって地方を変え、地方を変えて国を変える。このようになった時に、国と地方が、上下の関係から対等協力の関係になる」「議会の役割は執行機関の監視機能であるチェック機能であるというが、それは業務の一部に過ぎない。議会の役割は「民意の反映」にある。政策を立案し、提案していく。一人の頑張りもさることながら、会派で、常任委員会で、議長中心に議会全体で執行機関と対等な機関競争をする議会になったら、地域に明るい兆しが差してくる」と述べられました。

最後に、「議会がしっかりしていれば執行機関は必ず変わる」「議会が頑張れば地域を変える原動力になろう」と呼びかけられ研修会は締めくくられました。



飯田市の大規模事業について

小平 彰 議員 (新政いいだ)



A リニア開業が2027年以降となっても、JR東海は「県内工事はペースダウンすることなく全力で取り組む」としている。市のリニア関連事業についても2027年を目途として事業の進捗を図っている。ただし、開業の遅延に加えてJR東海が進める駅部の工事が遅れると、市が整備する高架下空間や駅部周辺の工事進捗に影響が出ると考えられる。

Q JR東海の「開業時期2027年以降」の発表で飯田市への影響は。

ズバリ！ 市政を問う

第1回定例会の一般質問の概要を紹介します。
(14名・質問順) ■は、そのほかの質問項目

一般質問の様子は
YouTubeで
動画配信しています



誰もが暮らしやすいまちを目指すための考えについて

市瀬 芳明 議員 (日本共産党)



A 令和3年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障がいのある人への合理的配慮の提供が義務化され、今年4月に施行される。令和4年度に一般市民を対象にユニバーサルデザイン研修会を開催したが、民間事業者を含む一般の参加者は少なく、法改正を広く周知するには至っていない。今後、広報や研修会を通して周知していきたい。

Q 障害者差別解消法が改正されるが、周知は進んでいると考えるか。

飯田市の大規模な震災時の水の確保について

古川 仁 議員 (日本共産党)



Q 避難所となる各小・中学校に井戸の設置をしてはと考えるがどうか。

A 飯田市地域防災計画で指定している指定避難施設28カ所のうち、井戸水が利用できる施設は、丸山小学校、飯田東中学校、飯田西中学校、鼎中学校の4校である。井戸の整備には費用の問題もあるため、「水道直結型の貯水タンク」という方法も考えながら、総合的に検討していきたい。

■市の子育て支援について
■市の福祉について

飯田市立病院の経営について

西森 六三 議員 (会派きぼう)



A 令和4年度の決算は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入院制限を行わざるを得なかったことから、2億9,200万円余の純損失となり、平成30年から4年続いた黒字決算から転じて赤字決算となった。令和5年度の決算は、病床利用率を上げるなどの入院収益の確保に努めたが、支出の面で診療材料費などが増加しており、2年連続で赤字となる見込みである。

Q コロナ関連補助金が減額となる中で病院経営の現状と対策は。

今後の災害対策における地域コミュニティについて

小林 真一 議員 (公明党)



Q コミュニティの維持と課題解決のため、市民・行政・議会の三者の総力戦が必要だが市長の考えは。

A 市民・行政・議会の三者が共同して地域の防災力を高めていくことが大事である。災害が大規模であるほど行政支援は行き届きづらくなるため、住民同士が自助・共助で最初のところをどうしのぐか、力の有り無しが大きな差につながる。そういった意味で、災害に備えた住民同士の顔の見え関係作りが必要不可欠である。

終活支援に対する 行政の在り方は



宮脇 邦彦 議員 (公明党)

Q 身寄りのない単身世帯が増加している実態を踏まえ、生前の意思を生かす行政の終活支援を加速しては。

A 終活支援の本質は、個人の死後の尊厳を守ることと認識する。将来的に、社会構造や世帯構成の変化、関係性の希薄化により、今までと違うやり方が求められると考える。まずは市民の皆さんに「終活」について知ってもらい、その方の意思を死後に反映する環境をどう整えていくか、考えていきたい。

子育て世帯、市民生活の 支援制度等の状況について



福澤 克憲 議員 (会派きぼう)

Q 各支援制度に共通する要件等を共有し、横の連携を図ること、事務処理の軽減につなげてはかがか。

A 考え方としては理解するが、現時点で部署の新設は難しいと考える。給付金事業については、それぞれの係で並走する別の給付金に該当しないか、受付・審査の段階で事務フローを工夫して連携をとってきた。全庁的な協力と分担に尽きると考える。庁内事務のデジタル化も含め、今後の状況に応じて、体制を見直しながら対応していきたい。

飯田市の新しい 公共交通について



佐々木 博子 議員 (会派みらい)

Q 飯田市のまちづくりにおける公共交通のあり方をどのように考えるか。

A 飯田市が目指すまちづくりに従って公共交通の位置づけも変化していく必要がある。AI活用型オンデマンドや自動運転など新しい技術をどのように取り入れて、まちの中に組み込んでいくか考えていかなければいけない。飯田市が目指すまちづくりには公共交通をどう位置づけるか、根っこから考え直さなければいけないタイミングだと考える。

令和6年度当初予算について



清水 勇 議員 (会派きぼう)

Q 令和6年度予算のポイントと予算編成の中で理事者査定にどう取り組んだか。

A 令和6年度予算の概要としては、9つのテーマに整理している。この中でも特に、「安心して子育てができる環境づくり」「市民生活の省エネ化・脱炭素化の推進」「地域のつながりと防災力の向上」の3つが重要な柱と考えている。未来デザイン2028の中期4年間の実を上げるという思いで予算編成に取り組んだ。

■天龍峡国定公園の安全対策について

公民館の設備充実と 避難所としての役割について



下平 恒男 議員 (新政いいだ)

Q 避難所機能など多くの役割を担う20地区公民館調理室には、空調設備の設置が重要では。

A 公民館の空調設備は、教育委員会施設等総合管理計画に基づき、利用頻度が高い会議室等を優先に設置や更新を進めてきた。令和7年度まで新規設置の予定はない。

地区公民館は、学び・交流・自治・防災等の拠点施設であり、教育委員会施設等総合管理計画の次期実施計画の策定の中で、空調も含めた設備の充実について検討していく。

下水処理を行っている 松尾浄化管理センターでの発電



木下 徳康 議員 (新政いいだ)

Q 汚泥から出るメタンガスによるバイオマス発電の価格は、購入電力の価格より高いので売電しては。

A 固定価格買取制度を利用して発電するには、国の設備認定を得る必要があるが、新設が原則であって、既存施設は対象とならない。国に売電に係る改善策を要望できないかということだが、現行法(下水道法第34条)では、消化ガス発電設置に対する補助と固定価格買取制度を併用できないと規定されている。

「出産と産後ケア」について



関島百合 議員 (会派みらい)

A 当地域での分娩件数は平成29年には944件に分娩件数が減少し、個室で過ごしたいと希望する妊産婦のニーズも高まっているため、病室のあり方について組織を立ち上げ、院内で検討を始めたところ。周産期センターとしても幅広い対応が求められているが、さまざまな声をいただいているので、改善すべき点は改善していく。

Q 「産み育てやすい」環境づくりの一翼を担う、飯田市立病院の産科の現状と課題は。

飯田市のDXの現況は



筒井誠逸 議員 (新政いいだ)

A 行政手続きのオンライン化の取り組みとしては、令和4年度に公共施設予約システムの更新、マイナンバーカードを利用した証明書のコンビニ交付の開始、書かない窓口申請システムによる証明書の交付等を開始した。令和5年10月からは契約手続きのオンライン化、令和6年2月から市税等のWEB口座振替受付サービスを開始した。

Q 市民生活をより良い方向に変化させるためにDXを活用する。飯田市の推進の現況は。

飯田市のこれからの学校の配置・枠組みについて



原和世 議員 (会派みらい)

A 学級・学校の適正規模については、審議会に国や県が考える規模を示し、飯田市では、国が望ましいとする規模よりも小規模な学校が多いこと、児童生徒数の減少とともに、今後も学級数が減少することが推定されると説明している。今後飯田市としての一定の考え方は必要になると考える。審議会と考え方を共有しながら議論を進めていきたい。

Q 学校のあり方審議会に、学級・学校の適正規模について、教育委員会としての考えを示すべきでは。

飯田市議会ってどんなところ？

浜井場小学校へ出前講座の実施

1月23日に浜井場小学校6年生児童28人を対象に出前講座を行いました。

市議会の役割や仕組みなどをクイズ形式も交えながら説明したのち、小グループに分かれて議員と児童で意見交換をしました。

意見交換の場で児童からは「議員になった動機は」「一番大変だった仕事は」といった質問や「使わなくなったプールの場所を活用できないか」など学校施設への要望、飯田市の将来に関する意見が活発に出され、議員はそれぞれ真摯（しんし）に向き合いました。



同校では初めての出前講座でしたが、学校側から「児童たちが学校や飯田のことを考える良い機会になった」との評価を頂きました。出前講座は主権者教育の一環に位置付け、議会の仕組みや役割等を説明した上で意見交換もしています。対象はおおむね10人以上で構成する市内の団体、グループです。小中学校に限らず、議会に関心のある皆さんからの申し込みに応じて開催しています。

議会改革を市民とともに

議会改革推進会議では、「『くらし豊かないいだの未来（あす）を 市民とともに』」市民のしあわせに貢献する議会」のストーリーの下、全議員で市民の福祉・利益の向上を目指して取り組んでいます。

令和5年度は、市民と関係が深い事項を優先して取り組むべき課題として挙げ、

令和5年度後期 政務調査活動報告会

市議会の各会派では、今後の政策の立案、提言に生かし、ひいては市民益につなげていくことを目的に政務調査を実施しています。令和5年10月から令和6年3月までに実施した各会派の調査研究の概要は以下のとおりです。また、3月21日には、令和5年度後期の政務調査研究報告会を市役所で行いました。

■ 新政いいだ

- 地方議員研究会「自治体と情報 応用編」～デジタル庁と自治体 DX の推進～（東京都内）
- 「自営型テレワーク推進事業の取り組み」について（長野県塩尻市）

■ 会派きぼう

- 「観光ビッグデータ活用の取り組み」について（北海道上川町）
- 「障害福祉を中核とする事業所の環境施策」について（北海道東神楽町）
- 「恵み野花のまちづくりの取り組み」について（北海道恵庭市）

■ 会派みらい

- 「AI オンデマンド交通の取り組み」について（長野県安曇野市／茅野市）
- 「上田市に見る、自治組織の見直し」について（長野県上田市）

■ 公明党

- 「当別町が進める小中一貫教育」について（北海道当別町）
- 「医療的ケア児支援の取り組み～国立成育医療研究センター内『もみじの家』」について（東京都世田谷区）


■ 日本共産党

- 「まちのコイン事業」について（福岡県八女市）
- 「循環のまち大木町の取り組み」について（福岡県大木町）
- 「ごみを資源として生かす循環のまちづくり」について（福岡県みやま市）

詳細は飯田市議会公式ウェブサイトをご覧ください 



12/20 議会改革推進会議全体会

地方議会評価
モデルの内容
はこちら 



広報・広聴、政策づくりなどに関し、実施主体（議会改革推進会議、広報広聴委員会及び正副委員長会）ごとに議論を進めました。

現在は令和4年度に全議員で取り組んだ「地方議会評価モデル」で導き出した飯田市議会の「スローガン」、「ミッション」、「ビジョン」及び「課題を解決するための具体的な実現方策」を基に、飯田市議会が進むべき方向性と議会活動（改革）の具体的な取り組みを示すべく、準備を進めています。

これらの飯田市議会の取り組みは、早稲田大学マニフェスト研究所議会改革調査部会が実施した、議会改革の取り組み状況や傾向を把握するための調査「議会改革度調査2023」において全国10位となりました。

今後も二元代表制の一翼を担うため議会の強化してまいります。

また、まもなく「新たな議会の姿」（新・ビジョン、議会活動目標）をお示しできると考えております。

総務委員会

3月4日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

総務委員会に付託となった議案6件について、慎重に審査を行った結果、いずれも原案のとおり可決することに決定しました。

議案審査の中での主な質疑の内容をご紹介します。

令和6年度航空写真撮影及び写真地図作成に関する事務の受託について（議案第21号）

議案は、固定資産の評価替えに伴う航空写真撮影及び写真地図作成業務について、阿智村、平谷村、下條村及び泰阜村から事務の委託を受けようとするもの。

Q 航空写真の撮影方法について、令和3年度の前回撮影時と違いはあるか。

A 前回撮影時と撮影方法は同じである。1市4村で約5日間をかけてヘリコプターが往復し、2千枚程度の航空写真を撮影する。

Q 撮影を行った航空写真の画像は、位置データをもった画像となるか。

A ご指摘のとおり、位置データをもちいた画像となる。



《予算決算委員会 総務分科会》 議案第34号 令和6年度飯田市一般会計予算（案）

地域自治組織運営事業について

Q 飯田市自治基本条例の学び直しとあるが、条例の改正までを見込んでいるか。

A まずは条例制定時の状況を振り返り、「20地区田舎へ還ろう戦略」についても、まちづくり委員会の皆さんや市民と共に振り返ってもらおう。振り返りの結果を各地区に持ち帰っていただき、自治振興センター職員や公民館主事を交えて、何かできることはないか話し合っていたり、かたちにもっていきたいと考えている。



地域安全活動事業について

Q ソーラーパネル付きLED防犯灯導入に至った経緯は。

A 導入してから10年余が経過したLED防犯灯の不具合の発生と、地元業者によるソーラーパネル付きLED防犯灯の取扱いが、従来のLED防犯灯の切り替えのタイミングと重なったことから、導入に至った。



Q 令和6年度におけるソーラーパネル付きLED防犯灯の設置場所と設置数は。

A 市内の優先順位が高い箇所から150基程度の設置を予定している。雨天等が続くと発電ができず点灯しないため、一個おきでの設置を予定しており、将来的には市内の半分の防犯灯をソーラーパネル付きLED防犯灯に置き換えてまいりたい。

3R（さんあーる）推進事業について

Q 生ごみ処理機器導入費補助金の交付はいつから開始し、今まで何件補助を行ったか。また補助金の交付総額は。

A 平成22年度から補助金の交付を開始し、毎年200万円程度の補助金を交付している。また、1年で100件強の補助を行い、累計で1千589件、2千891万7千円の補助金を交付した。

Q 生ごみ処理機の導入のみに約880万円を予算化するより、従来の約250万円程度の予算とし、残りの約600万円の予算を、燃やすごみの削減を地域に訴えかけていく方法を考えられないか。

A 稲葉クリーンセンターの喫緊の状況が市民個々に伝わり、ごみの分別も含めて各家庭がどう行動していくかということに響かないといけないと考えている。



計画の120%で燃やすごみを処理する稲葉クリーンセンター

社会文教委員会

3月5・6日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について（議案第13号）

令和6年度から令和8年度までの保険料率を定めるため、条例の一部を改正しようとするもの。

Q 以前、第6期介護保険料設定に関し、保険料率の設定を変更することで上昇率を低減するとの視点で議論している。その際に、所得段階1段階と12段階の保険料額の差が大きくなり、県内他市にはこれほどの傾斜配分はないとの議論があった。今回、国の標準的な段階が13段階まで拡大したが、市はさらに16段階まで拡大する。第9期保険料額の負担は、第1段階と第16段階では、9・6倍、負担割合では、2・2倍が2・7倍と広がっている。所得段階を13段階とした場合は、基金からの繰り入れが3年間で2千3百万円余り増えるとの説明があったが、現在の基金残高は6億円であり、一定の残額は見込まれる。5年度の介護保険特別会計の単年度収支も黒字の見込みであるとの説明もあった。国が13段階に拡大した今、なぜここで負担割合を上げてよいのかとの疑問がある。なぜ16段階とする必要があるか。理由を確認したい。

A 年末の調査結果では、県内他市では、14段階を設定する市が3市ある。市では13段階か、16段階か、との議論の中で、基金からの繰入金を抑え3億4千万円に留めるとの選択の中で16段階を選択した。

飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について（議案第15号）

満18歳に達する年度までの医療機関窓口での自己負担額を5000円から3000円へ変更するため、条例の一部を改正しようとするもの。

Q この給付事業は、県と市が財源を2分の1ずつ負担する共同事業であると捉えている。その視点も含め今回3000円とした考えを確認したい。また、県の補助金増額分とで財源に1千万円のかい離があるが、この財源について所管の部としてはどう考えるか。

A 無料にするには財源が足りないため、3000円とした。かい離がある財源については、所管では子育て支援に充てるものと考え、出産・子育てに寄り添うための事業の財源として事業を組み立てた。

《予算決算委員会 社会文教分科会》
議案第34号 令和6年度飯田市一般会計予算（案）

生活支援コーディネーターの配置について

Q 当委員会から政策提案した、地域包括支援センターへの生活支援コーディネーターの配置について、配置を目指し調整を開

始することだが、具体的な進め方は

A コーディネーターの人材確保に課題があるため、一度に全てのセンターに配置するのは難しいと考える。まずは、一つのセンターに先行配置し、実際に実績を作りながら、他のセンターに配置していくことを想定している。

所管事務調査について

テーマ

「我がまちで子育てを支えていくためには」

国は、すべての子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現するため、令和5年4月、子ども家庭庁を創設し、また、子ども基本法を制定するなど、子ども政策は新たな展開を迎えています。「子どもまんなか社会」の実現に向けては、家や学校、地域、いろんな場所でも子どもが安心して過ごせる場が増え、また、安心して子育てができる環境づくりに向け、様々な人材からの支援が切れ目なく提供される必要があります。子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる我がまちの実現に向け、さらに取り組みむべき場や支援、仕組みなどの調査、研究を進めます。





飯田市電気自動車用急速充電器設置条例の制定について（議案第17号）

Q 設置台数を1台にした根拠は。

A 設置には高額な整備費が必要で複数台を設置するよりも、充電器があることで地域に立ち寄ってもらうこと等の副次的な面をねらいとしている。

Q 副次的な面をねらいとしているとは、具体的に何か。

A お店やパーキングエリアで行われているイベントへ立ち寄ってもらう等、天龍峡に滞在してもらうことでさまざまな効果を期待している。



Q 訪れた人がいかに周辺を周遊してもらえるかがポイントになってくると考えるがどうか。

A 以前から地元ではパーキングエリアや天龍峡駅周辺の双方を周遊してもらうことを大きな課題として捉えており、急速充電器の充電のために立ち寄った利用者が、地域内の施設に立ち寄ってもらう等、滞在時間の拡大に繋がる取り組みが重要と考えている。

《予算決算委員会 産業建設分科会》
議案第34号 令和6年度飯田市一般会計予算（案）

商業活性化総合支援事業について

Q 地域ポイント実証実験事業として、3,668万8千円の予算が計上されているが、いつ頃、どのような実証実験を想定しているか。

A 現在、魅力的な地域ポイントとは何かを庁内関係部署で総合的に議論している段階であり、4月早々には事業の内容を固めた上で、プラットフォームを選択したいと考えている。できるだけ早く取り組みたいと考えており、事業期間は7月から年内いっぱいを見込んで想定している。

地域経済循環推進事業について

Q 議会からの行政評価の中で、当分科会から予算の反映を含めて改善を求めた事務事業で、最新の地域経済循環率の指標づくりには、正確に実態把握をしないと対策が打てないため、統計数値を把握するための委託料や使用料等の費用について予算を増やしても取り組むべきではないかと提言した。その中で実態把握を進めるために委託料を計上したという理解でいいか。

A 実態把握について課題がある中で、委託業者から伴走型で支援を受けながら今ある経済指標を用いて循環率として積み上げる指標を選定すると共に、必要に応じて新たな

に地域内での調査項目等の提案をもらうことを計画している。その上で、産業経済部の職員で構成する地域活性化プログラムリーダー会を中心に調査を行い、飯田版の地域内経済循環率をつくっていきたい。

リニア推進事業について

Q JR東海からリニアの開業が2027年以降になると表明があり、計画に遅れが生じる中、令和6年度予算の事業費の考え方は。

A 予算編成にあたり、リニア駅の本体工事があり、関係する部分についてどのように考え、どう整理するか悩ましかった。令和6年度については、今まで進めてきた用地交渉の結果としての用地取得や建物等物件補償、これまで整備を進めてきた道路整備の延長など、6年度にどうしても必要となる部分の予算はしっかり計上していくこととした。

南信濃観光施設管理事業について

（道の駅遠山郷施設改修計画）

Q 年間の利用者見込みについて、令和5年第3回定例会（9月）で示された人数から変更はあったか。

A 現在、改めて青崩峠トンネルの開通効果を含めて利用者数の見込みや事業の収支等の整理をしており、令和6年第2回定例会の中で示したいと考えている。

リニア推進 特別委員会

3月11日に
委員会を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

土曾川橋りょうへのトンネル発生土の活用について

1月27日に座光寺共和地区、2月28日に上郷丹保・北条地区において、JR東海から、リニア中央新幹線事業に関する説明会が開催されたとの報告がありました。

説明会では、リニア長野県駅（仮称）の工事の進捗状況として、竜西一貫水路の付替え工事と、土曾川橋りょう基礎工事について説明があり、土曾川橋りょう基礎工事については、橋脚基礎の中詰め材に、トンネル発生土の活用を考えている。トンネル発生土の一部には自然由来の重金属が含まれることがあり、ヒ素やホウ素が基準値を超えた対策土が発生している。

対策土は、土壌汚染対策法に定められた基準値を1から3倍程度超えているため、環境安全性を確保するための対策を行う。

土曾川橋りょう基礎の各部材は、厚さ1.5m以上であり、水密性が十分確保できるコンクリート部材で構成されている。自然由来の重金属が溶出する懸念は無いと考えているが、地下水等の汚染による周辺への深刻な影響を万が一にも起こさないため、地下水や

河川の水質等の調査を実施していく。

説明会では、対策土の活用にあたっての施工管理やチェック体制、施工後の長期的な水質調査の実施、結果の公表などの意見や不安の声があったが、反対の意見はなかったとの報告がありました。

Q 長野県内の対策土の量はどれくらいあるか。橋脚基礎の中詰め材で処分できない場合の対策は。

A 対策土の量は大鹿村で約5,000m³、豊丘村で約3,000m³と聞いている。土曾川橋りょうの基礎工事での中詰め材は大鹿村の対策土を活用すると聞いている。その他の対策土は、今後検討されることになる。

Q 橋脚の下流域で農業をされている方がいる。全ての皆さんが説明会に参加しないと思うが、どのように伝えて理解を得ていくか。

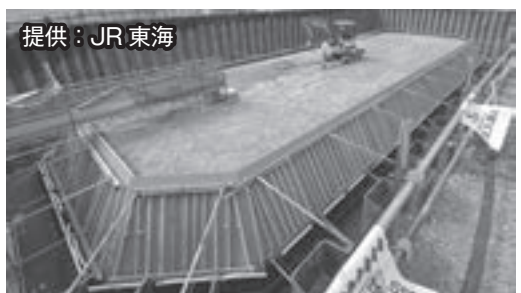
A 説明会には全員の方が参加されているわけではない。一番心配されるのは下流域の皆さんと認識している。井水の会合など、さまざまな機会を通じて今回の説明内容や今後のモニタリング調査の状況をきちんと説明してもらおうようJR東海にお願いをしていく。

Q 住民に寄り添うのが市の立場だと思うが、これからの情報提供や寄り添い方など、どのような認識か。

A 事前に水質調査をし、施工後も水質調査を行い、モニタリングをしていくので、

その結果をきちんと公表し、定期的に住民の皆様にお知らせしていくことが、信頼を得る上で大切と認識している。

市としては、住民の皆さんの不安が払しょくされるよう、対応していく。



提供：JR東海

令和6年3月末時点での土曾川橋りょう基礎整備の様子（座光寺共和地区）

「中央新幹線（品川・名古屋間）に係る用地取得事務の委託に関する協定の変更」について

リニア中央新幹線の用地取得事務について、平成27年4月1日から令和6年3月31日までの9年間を、令和8年3月31日までの2年間延長する。リニア本線及び駅周辺整備事業の用地取得が大詰めに入ってきているが、引き続き用地補償交渉が必要な状況であること。契約後においても移転完了までは地権者及び関係者にしつかり寄り添った対応をしていくとの説明がありました。

Q 権利者数は約200人とのことだが、契約率は現在何%か。

A JR本線の用地取得事務状況は、約9割の契約率となっている。

議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



～世界の「オザワ」～

井 坪 隆

およそクラシック音楽に縁がない人にも、その存在は知られていた指揮者の小澤征爾さんが去る2月に亡くなった。我が家には、小澤さんと私のツーショットの写真が掲げてある。あの「世界のオザワ」が、“田舎のイツボ”との写真に気軽に応じてくれた。私は、地元の吹奏楽団を指揮していた頃、小澤さんの指揮する姿を収めたDVDを何十枚も買い求め、そのタクトを真似てみた。目、口、指、身体で巧みにオーケストラを操るそのタクトは、私を虜にした。

カリスマを失った某市で毎年開催される音楽祭は、この先誰が導き、どのように運営されていくのだろうか。よそ事ながら、市民が主体となって開催される飯田市の「オケ友」に関わる一人として、憂いを感じる。



～桜の季節は巡り～

原 和 世

今年も桜の季節が巡ってきました。このコラム前回寄稿が令和2年3月、「今年は静かな桜まつり」とあり、「目に見えない不安に、恐れ連鎖から逃れなくなって」と書いてあります。丁度コロナが世界を席卷し始めた頃です。4月に緊急事態宣言が全国に、マスク、3密、変異種など、暮らしも経済も翻弄される日々が、令和5年5月の収束宣言まで続きます。多くの方が亡くなり、地域社会も傷つきました。今、4年余の間に希薄になった人社会、絆・結いとされる人の繋がり慣習を取り戻すことができるのか、厳しい冬の寒さを超えて、蕾を膨らませる桜のように、在りたいと思います。地域力は、悠久の時をかけて培われたものです。それを信じてみらいに。

議会の動き(予定)

■第2回定例会

5月21日(火)～6月21日(金)

◇一般質問 (傍聴可能)

5月28日(火)～29日(水)

◇委員会日程 (傍聴可能)

予算決算委員会前期全体会	5月30日(木)
総務委員会	6月5日(水)
社会文教委員会	6月6日(木)
産業建設委員会	6月10日(月)
リニア推進特別委員会	6月13日(木)
予算決算委員会後期全体会	6月19日(水)

■議会への請願・陳情は、議会事務局へ

5月7日(火)午後5時までにご提出ください。

議会傍聴に際してのお願い

議場や委員会室に入る場合は、帽子、外とう、襟巻を着用し、又はつえ、傘の類は携帯してはならないことになっています。(病気その他の理由により議長の許可を得たときは例外となりますので議会事務局職員にお申し出ください。)ご理解とご協力をお願いいたします。

広報広聴委員会

委員長/岡田 倫 英 副委員長/山崎 昌 伸
委員/小平 彰 橋爪 重人 西森 六三
宮脇 邦彦 関島 百合 市瀬 芳明

表紙紹介

がんばっとるに!! 上村

市内で最も人口が少ない上村ですが、霜月祭りや、身近にある豊かな自然、地元でしか味わえないジンギスや下栗いもなど多くの魅力があります。令和元年に若手有志で結成された“どんぐり隊”を中心に、保育園の裏山を遊び場として整備したり、小学生の夏休み親子キャンプの自然体験企画などに取り組んでいます。令和5年10月には公民館と連携し、里山や上村川など身近な自然の中での子ども達の体験活動を考える学習会を開催し、体験プログラムの更なる充実を目指しています。地域内外の人達が上村の魅力体験を通じて交流をひろげ、新しいつながりを創り出して地域を元気にしようと頑張っています。

